

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-106	中学校	美 術	美 術	1
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美術 116-72	美術 1 美術との出会い		

1 編修の基本方針

心が動く、
その先へ。

— これまでも、これからも大事にしていること —

本教科書は、弊社が美術の教科書を発刊して以来、「発達の段階に応じた学びの大切さ」を重視して発行しています。

中学生という13歳、14歳、15歳に応じた成長を後押しできる美術の学びが重要と捉えています。



心豊かに、たくましく生きる 3年間の成長を後押しする“教科書”

予測困難な社会の中で次の時代を生き抜く生徒たちに必要なのは、豊かな感性を育みながら自ら課題を発見し、試行錯誤しながら解決方法を探り、新たな価値を創造する「美術の学び」です。本教科書は、中学3年間の発達の段階をきめ細かく分析し、各学年の資質・能力に合わせ生徒の成長に応じた3分冊として内容を構成しました。生徒が、持続可能な社会の担い手として、新たな価値を創造していく力を育んでいくことを目指しています。

基本方針 1

これからの時代を
生き抜く
資質能力を養う
“美術の学び”

中学3年間それぞれの発達に応じた造形的な見方・感じ方を示し、豊かな感性を育むことで美術科の資質能力を養うことができる教科書を目指しました。

基本方針 2

豊かな感性を育み、
創造する喜びを
実感する
“美術の学び”

表現や鑑賞の多様な活動を通して、創造活動の喜びや美術文化への理解を深め、造形的な視点を養い、生徒自身が成長を実感できる教科書を目指しました。

基本方針 3

生活や社会に豊かに
関わる
“美術の学び”

さまざまな作品や活動と出会い体験することで、生徒自身が自分ごととして受け入れ、多様な表現と価値観に触れられる教科書を目指しました。

これからの時代を生き抜く資質能力を養う“美術の学び”

中学3年間それぞれの発達に応じた造形的な見方・感じ方を示し、豊かな感性を育むことで美術科の資質能力を養うことができる教科書を目指しました。

色彩豊かな表現や原寸大で、美術との出会いへと誘う表紙と巻頭オリエンテーション

身の回りのものや風景などの形や色彩を意識することで、新しい気づきがあり、心が動きます。心の動き、その感動や喜びこそが、美術の世界への入り口となります。

巻頭オリエンテーションでは、「グランド・ジャット島の日曜日の午後」（ジョルジュ・スーラ）を取り上げ、表紙に作品の一部分を大きく掲載しています。スーラの画面構成や並置混色の工夫に気づき、意図を考えることを通して、美術という新しい世界への興味の扉を開き、学びを深めてほしいと考え、紙面を構成しています。

- 3ページ構成により、細かい色彩表現を原寸大で掲載。

▶P.2~4

美術 I オリエンテーション

美術との出会い

身の回りのものや風景などに、ふと目を止め、形や色彩などを意識して見てください。

すると、新たな気づきに心が動くでしょう。その喜びや感動こそが、美術の世界への入り口となります。

美術を学ぶことは、自分の心との出会いから始まるのです。一緒にその扉を開きましょう。 ▶参照 表紙



●グランド・ジャット島の日曜日の午後
[油彩・キャンバス/207.5×308.1cm]1864~66
シカゴ美術館蔵[アメリカ] ジョルジュ・スーラ[フランス・1859~91]（以下同様）

美術の見方や考え方でとらえよう

ジョルジュ・スーラは、『グランド・ジャット島の日曜日の午後』を完成させるまで、何十枚もの習作を描きました。本作品と習作は同じ風景をもとにしていますが、どのような点が違うのでしょうか。形や色彩、構図、描き方に着目してみると、今までにない見方や考え方に気づくことができるでしょう。



●習作[コンテ・紙/17.7×23.7cm]1864

さまざまな作品と出会い、鑑賞活動や表現活動の意味を知り、学習意欲を高めるガイダンスページ

教科書は、絵や彫刻、デザインや工芸の2分野の題材と、学びを支える資料で構成しています。絵や彫刻、デザインや工芸の分野の題材と鑑賞の活動に、それぞれの入り口としてガイダンスページを設けました。何をどのように学ぶのかを理解できるよう、図版と端的な文章で構成しています。



▲P.9 鑑賞との出会い



▲P.10~11 絵や彫刻との出会い



▲P.36~37 デザインや工芸との出会い

豊かな感性を育み、創造する喜びを実感する“美術の学び”

表現や鑑賞の多様な活動を通して、創造活動の喜びや美術文化への理解を深め、造形的な視点を養い、生徒自身が成長を実感できる教科書を目指しました。

三年間の成長を系統立てて、イメージマップ化

美術で育む資質・能力を考える上で大切なのは造形的な視点（造形的な見方・考え方）であり、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すことです。

この教科書で造形的な視点を育みながら学んでいく3年間の美術の学習をイメージできるよう、「ようこそ美術の学びへ」を見開きで表しました。

▶P.6～7
ようこそ美術の学びへ



何ができるようになるか、何を学ぶのかを明確に示しました

各題材では資質・能力の3つの柱から、生徒が養う力を「学びの目標」として設定しました。「鑑賞の入り口」「造形的な視点」「表現のヒント」を提示し、生徒が学習内容をスムーズに理解し、学習活動に向かえるよう配慮しました。

3つの柱を、本教科書では以下のように考えています。

知識及び技能

新たな見方・感じ方から造形的な視点を持って、表したい技能を身につけていくことができる。

思考力、判断力、表現力等

発想や構想する力を育み、造形の見方に変化が生まれ、生徒からの発信、対話、行動力につながる。

学びに向かう力、人間性等

興味関心を持たせ、さらに意欲的に活動させる働きかけをする。

学びの目標

- 形や質感などの材料の特徴に着目し、何かに見立ててイメージをとらえ、用具の使い方を考えながら工夫して表す。
- 身の回りの材料の特徴やイメージをもとに、形や色彩、質感などから見立ての構想を練ったり鑑賞したりする。
- 身の回りの材料などの形や色彩の特徴をもとに見立てて表すことに興味を持ち、意欲的に取り組む。

▲全ての題材において3つの柱を学習目標として設置

表現のヒント

材料は身の回りで探そう

制作に使用する材料は、海に近ければ流木、森があれば木の枝や松ぼっくりなど手に入りやすいものを探してみよう。廃材など普段から使えそうな材料を保管しておくのもよい。



造形的な視点

形や質感などの材料の特徴、全体のイメージに着目して考えよう。

＜鑑賞の入り口＞ 材料の特徴が、生き物にどのように生かされているだろうか。

▲学習のはじめに意識してほしい発問を提示

▲＜鑑賞の入り口＞での問いかけに対する見方のヒントを提示

▲表現活動における発想・構想の手立てや、技能の方法を提示

生活や社会に豊かに関わる“美術の学び”

生徒が、何をどのように表すのかという課題を自分のこととして受け止め、成長できるよう、多様な表現と価値観に触れられる題材を用意しています。

地域や社会の事象について、造形的な視点から興味を持ちます。

シンボルマークは、組織や事象の特徴を象徴的に表現したりメッセージを伝えたりします。地域やイベントのシンボルマークを考えることは、自分たちが暮らす社会を造形的な視点で見つめる力を養います。



▲P.44～45 形や色で伝えるシンボルマーク



その他にも

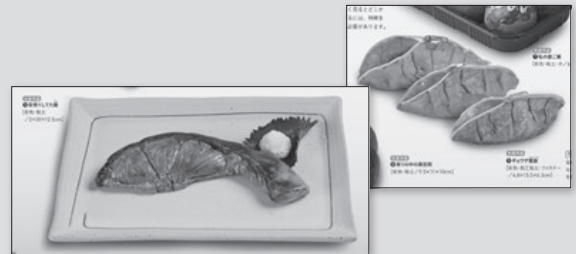
- ・地域の案内板や看板から文字デザインを表現する題材
- ・地域を紹介するイラストレポートの題材 など

美術は生活に身近であることを実感します。

工芸品は日常生活に彩りを与え豊かに演出します。木や土など自然の素材を用いて作品を制作することで、美術と生活との関係を実感しながら学びます。



▲P.50～51 暮らしを彩る土の造形



▲P.14～15 そのものらしさを形にして

地域の伝統や造形への興味を促します。

日本全国で行われる祭りには、その祭りの意味や地域の特徴などを伝える造形が、様々な形や色彩で登場します。祭りの造形を造形的な視点でとらえることが、地域の伝統や造形への興味を促すことにつながります。



▲P.54～55 祭りを彩る造形

美術館の機能や役割への理解を深め、身近な存在としてとらえます。

美術館は、美術作品を展示するだけの場所ではなく、複数の機能をもっています。また、その館ならではの特徴を強く打ち出している美術館もあります。美術館について知り、身近な存在としてとらえ足を運ぶことが、豊かに生きることにつながります。



▲P.73～74 美術館へ行こう

2 対照表

教育基本法第2条に示されている教育の目標を達成し、教育基本法の考えが教科書全体に行き渡るように、題材の設定や作品、写真の選択、文章表現などについて十分に配慮しました。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
オリエンテーション	一人一人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう、表紙の作品に関連させて紹介することで、美術との出会いの大切さを共有するページを設けました。(第2号)	P. 2～4
ようこそ 美術の学びへ	中学校3年間の美術の学びの取り組みを、生徒自身が俯瞰して捉えることができるようにし、個々の個性を尊重し、自ら進んで意欲的に学習に取り組めるように設けました。幼・小・中の連携を意識しました。(第2号)	P. 5～7
教科書の使い方	教科書を通して、より学習しやすく活用できるよう紙面の説明や、学習する意義を掲載しています。(第2号)	P. 8
領域・分野別 ガイダンスページ	鑑賞領域や表現領域の各分野（絵や彫刻など、デザインや工芸など）に、生徒が学習や活動にスムーズに取り組むためのガイダンスページを設置しました。なぜその内容を学ぶのかを学習することで、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培います。(第1号)	P. 9 P. 10～11 P. 36～37
本文・題材ページ	表現や鑑賞の全活動において、美しいものや優れたものに触れ、豊かな情操と道徳心を養うことのできる題材を掲載しています。生徒作品・作家作品や、発想構想の手助けとなる活動的な情景写真を取り入れて、健やかな身体を養う題材を掲載しています。(第1号)	全般
	表現や鑑賞の全活動において、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度や、自然・環境を意識した題材を通して、生命を尊び自然を大切にし、環境を意識した内容を掲載しています。(第3号、第4号)	
	日本の伝統文化に関わる題材を取り上げ、実際に表現・鑑賞することでそのよさを深く理解できるように工夫しています。(第5号)	
	我が国や諸外国の美術や文化に触れる機会を設け、その違いや共通点に気付き、それらを通して多様な文化を理解し、尊重する態度を養うことができる内容を設定しています。(第5号)	
学習に役立つ資料	発想・構想する上での思考のプロセスを提示し、取り組み方や、アイデアスケッチなどの記述方法について具体的な作家の例を取り上げました。また、身の回りの形や色彩を提示することで思考力、判断力、表現力等の資質能力を育成させる情報を掲載しています。(第1号、第2号、第5号)	P. 56～74
	表現活動をする上で、基礎・基本となる技法や安全指導や美術を重視しました。また、美術館への関心を高め、幅広い知識や教養と個々の能力を伸ばす自主自立の精神を養うことができるように設定しました。(第1号、第2号)	

上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

ICT 活用への配慮

全ての題材にQRコンテンツ「学びのはじめに」を設置し、タブレットPCなどICT機器を利活用しながら理解を深められるようにしています。また、タブレットPCの利活用を促す場面に「ICTマーク」を記載。二次元コードからICT機器を利活用して動画や資料を参照し学習を効果的に進められるよう、弊社ウェブサイトにも豊富なQRコンテンツを用意しています。

道徳との関連への配慮

教科書全体を通して表現や鑑賞する喜びを味わいながら、美しいものや崇高なものを尊重する心を育むことや、自己の理解、身の回りの人々、家族や学校の人々を敬愛すること、我が国や郷土の伝統と文化を大切にすることなどと関連を図るとともに、特に道徳との関連があるページについては、マークと補足する文章を示しています。

保護者への配慮—家庭、地域との連携

美術科がどのような教科でどのような学習をするのか、またこの教科書でどのようなことを学ぶのかをオリエンテーションのページなどで保護者にも伝わるように配慮し、学校・家庭・地域の連携を示しています。

伝統文化、言語活動の充実、他教科との関連

美術の学習を通して学びを実感することができるよう、多くの本文ページで配慮しました。

特別支援教育への配慮

全ての生徒が等しく学べるように、UDフォント（ユニバーサルデザインに対応した書体）を用い、カラーユニバーサルデザインの観点から編修を行うなど、特別支援教育の観点に配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-106	中学校	美 術	美 術	1
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美術 116-72	美術1 美術との出会い		

1 編修上特に意を用いた点や特色

▶▶ 特色① 授業と学びのポイントが見える

指導や評価がしやすく、授業の進め方がイメージできる

授業と学びのポイントを分かりやすく構成した紙面です。

題材は見開き（2ページ）構成を基本としました。インデックスや題材名、鑑賞の入り口、学びの目標を定位置に配置し、題材内容の把握と授業のポイントや進め方をイメージしやすくしました。主文は生徒が読みやすく、しかも掲載作品の鑑賞に適した位置に配置することで、学習のしやすさに配慮しました。

学習を示した題材名の表示

活動領域・分野を示すインデックス

三つの学習ポイントと相互に働く学習の流れ

学びの目標：各項目で身に着けたい力を、三つの目標として示しています。

主文：学習の主旨を題材ごとにイメージしやすいよう、分かりやすく示しています。

二次元コード「学びのはじめに」を全ての題材で設置し、題材の導入向けの教科書QRコンテンツがご覧になれます。

▲P.20～21 材料に命を吹き込む

学習のポイント

〈鑑賞の入り口〉

活動に入る際に、その題材に掲載されている作品から、よさや美しさを感じ取り、気づいてもらいたいことを示しています。

〈造形的な視点〉

鑑賞の入り口での問いかけに対する見方のヒントを示しています。

表現のヒント

材料は身の回りで探そう

制作に使用する材料は、海に近ければ流木、森があれば木の枝や松

表現活動において、発想・構想の手立てや、技能の手助けとなる内容を示しています。

その他学習に大切なマーク



タブレットPCなどを活用して取り組む内容を示しています。



短い時間で表すことができる作品を示しています。



注意しよう

作品をつくる上での安全面や、活動する際の注意点を示しています。



内容に関連するSDGsのゴールを示しています。

▶▶ 特色② 生徒の成長を支える教科書

中学校3年間の成長を後押しするための美術の学び

3分冊構成（美術1、美術2・3上、2・3下）の理由

中学生という13歳、14歳、15歳の心身ともに多感な時期こそ、発達に応じた成長を後押しできる美術の学びが重要と捉えています。

3分冊構成には理由があります。

【参照】学習指導要領 第2 各学年の目標及び内容

【第2学年及び第3学年の目標と内容】 3 内容の取扱い

学習指導要領に「第2学年と第3学年の発達の特性を考慮」と新設されました。特に、第2学年（14歳）から第3学年（15歳）へと進む過程で、「きれい」と「美しい」との違いを感じ取ったり、社会的な事象に対する興味の広さや深さが増したりするなど、生徒の見方や感じ方は大きく成長します。その発達の特性に則したねらいをもった題材を提供することが、生徒の成長に大きな役割を果たすことを考え、教科書を3分冊としています。

美術の学び
による
生徒の成長
ストーリー

美術1

1年生では、「美術との出会い」をテーマに、

小学校までとは違い、美術との出会いにより新しい見方・感じ方を知り、新たな自分を形成していく姿を目指す構成にしています。

美術
2・3上

2年生を対象とし、「学びの実感と深まり」をテーマに、

これまでの価値観が揺さぶられる中で、知的理解が深まり、美術の学びを実感する姿を目指す構成にしています。

美術
2・3下

3年生を対象とし、「学びの探求と未来」をテーマに、

自己や他者の内面を見つめ、進路や将来を考える中での価値観に目覚め、未来につながる美術の学びを探求する姿を目指す構成にしています。

表現活動を後押しする、発想・構想の手立てを4ページ構成として充実。

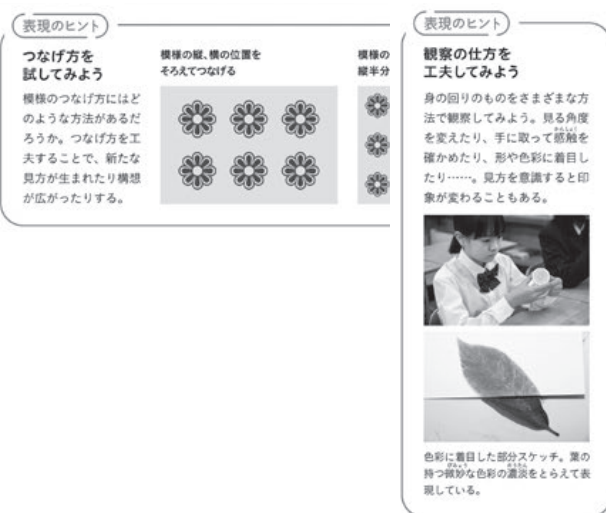
表現題材すべてに発想・構想を促す「表現のヒント」を設置。



▲P.58～59 発想・構想の手立て①



▲P.60～61
発想・構想の手立て②



▲P.66～67 木でつくる



▲P.38～39 つなげて広がる模様の世界



▲P.52～53 自然の美しさから生まれた

▶▶ 特色③ これからの社会につながる教科書

生活や社会との関連、他教科関連（カリキュラムマネジメント）、社会に開かれた教育課程

生徒自身の身の回りや、生活や社会と学びを関連させる教科書

身の回りや生活の中に、美しい、楽しいといった感情から美術との出会いを感じさせることが重要です。



▶P.38～39
つなげて広がる模様の世界



▶P.40～43
文字が生み出すイメージ
アニメーションアプリを使って
絵文字を作成。



地域のマーク

自分の住む地域やいろいろな地区のマークについて調べ、話し合い、デザインの意図や表現の工夫について考えてみよう。



▶P.44～45 形や色で伝えるシンボルマーク

他教科と関連させたり、生活や社会に生かせる学びに配慮した教科書

カリキュラムマネジメントの実現を目指して、他教科や他の題材との関連を図っています。

表現のヒント

アイデアをストックしておこう
日常生活の中で気になった形や色彩を記録しておくと、表現のヒントやひらめきにつながる。



生徒作品
③あしものアート
[写真・ペン・色画用紙・アルバムノート／17×18.5cm]

言語活動

社会科

▶▶P.46～47
見るひとへ楽しく伝えよう



生徒作品
③数学と美術は紙一重(部分)
[ペン・写真・紙／29.4×20.7cm]

④遮光器土偶

重要文化財
[土／高さ36cm]
前1000～前400
青森県出土
東京国立博物館蔵
遮光器(雪の反射から目を守るゴーグルのような道具)に似ていることから、この名前がつけられた。



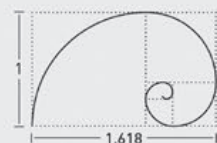
⑤土偶(仮面の女神) 国宝
[土／高さ34cm]
縄文時代後期前半 長野県出土
茅野市尖石縄文考古館蔵[長野県]

▶P.35 原始の美に会う旅

数学・理科

美術の中にもある黄金比

黄金比とは1:1.618とされ、人間が最も美しいと感じる比率と言われている。自然界だけでなく、建築や芸術作品にもこの黄金比が生かされている。



【黄金比】
黄金比は自然界の中にあり、自然が作り出した造形美として知られている。



⑥パルテノン神殿 世界遺産
前447～438ころ[ギリシャ]



⑦ミロのヴィーナス(アフロディーテ)
[大理石／202cm]
前130ころ
ルーヴル美術館蔵[フランス]

▶P.52～53
自然の美しさから生まれた

本教科書の特色表

基本事項	教育基本法の遵守	・教育基本法第二条に示されている教育の目標を達成し、教育基本法の考えが教科書全体に行き渡るように、題材の設定や作品、写真の選択、文章表現などについて十分に配慮しています。
	学習指導要領の遵守	・学習指導要領に示された目標を受けて、全ての題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮しています。題材は、学習指導要領を基に「表現」及び「鑑賞」領域のもと「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の3つの分野に分け、活動の内容を把握しやすいように示しています。 ・学習指導要領で示された目標に基づき、全ての題材において「学習の目標」を示しています。 ・〔共通事項〕は、「造形的な視点」とし、教科書全体で取り扱うとともに、活動と〔共通事項〕を結び付けられるように設定しています。また、より造形的な視点で身の回りや社会をとらえることができるようページレイアウトを工夫したり、学習を補足するための特設ページや資料ページも設けています。
	公正性	題材の選定、記述に当たっては、内容が面的、断片的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを、十分に吟味・検証しています。
	正確性	検定基準等に照らして的確な内容であることを検証しています。
内容・系統	発達の段階への配慮（小、中、高連携）	3分冊で発行することで、中学校3年間という生徒の発達の段階に十分配慮し系統立てた内容で題材を設定し構成しています。
	配列・分量	・地域や学校の実態に合わせて、題材を選択したり組み合わせたりできるよう工夫しています。 ・題材での学びを次の活動へ生かせるよう、題材に系統性をもたせています。
	主体的・対話的で深い学びの実現	・オリエンテーションのページにおいて、美術の学びに向かうメッセージを設けました。 ・＜鑑賞の入り口＞＜造形的な視点＞や「学びの目標」、教科書の使い方を共有し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫しています。 ・「作者の言葉」から生徒が自分の活動により主体的に取り組む、意欲的に学習が深められるようにしています。 ・生徒が考えを伝え合ったり、友達と相談したりしながら活動を行う様子を紹介し、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるように工夫しています。 ・題材ページや資料ページに掲載している二次元コードによる教科書QRコンテンツを活用することで、学習に関心が高まり、さらに学びを深められるようコンテンツ内容に十分配慮しています。
	社会に開かれた教育課程・カリキュラムマネジメントの実現	・オリエンテーションや特設ページを設け、美術科で育む資質・能力について保護者や教科書を見る人たちと共有できるよう工夫しています。また、アーティストやデザイナー、著名人を取り上げることで美術が社会や生活の中で生かされていることを活用できるよう示しています。 ・社会問題や、地域文化、美術以外の分野の著名人も多く取り上げて、美術での学習が社会とつながっていることを示しています。 ・他教科と関わりのある題材を設定しています。
	言語活動の充実	・発想や構想、鑑賞など様々な場面で生徒がコミュニケーションを取りながら造形活動を行う様子を紹介しています。 ・「作者の言葉」や、アイデアスケッチを紹介し、形や色彩・言葉で思いを伝え合う活動を促しています。
現代的・社会的課題	社会の持続可能な発展（SDGs）	・持続可能な社会の担い手として成長すべき点や、生命の多様性・共生に関連する作家作品などを取り上げ、社会の持続可能な発展への関心を高める工夫をしています。 ・環境、貧困、人権、平和、開発など、社会の持続可能な発展に関わる問題についても、SDGsマークを掲載して関連させながら、生徒の発達の段階に応じて取り扱いました。
	伝統文化・多様性の尊重と国際理解	・伝統文化に関わる作品を多く取り上げています。 ・外国の作家作品や、アール・ブリュットの作品を取り上げています。
	家庭や地域・社会への関心	・二次元コードから参照できる教科書QRコンテンツを豊富に用意することで、題材ページや特設ページにおいて、作品を家庭で使ったり、飾ったりするなど、個別最適な学びを提供しています。 ・安全な社会や防災の観点を造形的に捉えた作品やデザインの工夫などで紹介しています。
	人権への配慮	・あらゆる立場の作家や活動を紹介し、人との触れ合いや共生への意識を高める工夫をしています。 ・互いの活動や表現を認め合う姿を数多く紹介しています。 ・題材ページや資料ページにおいて、平和や人権に関わる作家作品やポスターなどを取り上げています。
その他	ICTの活用	・二次元コードを示している箇所には、ICTを活用して学習を効果的に進められるように、教科書QRコンテンツを用意しました。二次元コードから直接アクセスすることができます。 ・別途デジタル教材を提供する体制を整え、学習効果をより高められるよう配慮しています。
	他教科、道徳、総合的な学習の時間等との関連	・道徳の関連する題材に「道徳との関連」マークと内容項目を記載し、題材との関連性を示しています。また、他教科と関連付けて学習できる題材を豊富に用意しました。 ・他教科と関連して学習できるよう題材構成を工夫しました。
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	・すべての生徒が等しく学べるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して編修しています。 ・拡大教科書を作成します。
	判型	・A4ワイド判を採用し、作品や写真をより大きく見やすく、インパクトを持たせて掲載し、生徒の興味・関心を引き出す工夫をしています。
	文字・印刷・製本	・文字は、生徒に読みやすいよう開発された教科書体を使用しています。 ・重さへの負担を軽減するため、現行教科書（令和3年度版）よりも表紙や本文用紙の軽量化を図り、より良質のコート紙、マット紙を使用しています。 ・表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングを施し、丈夫で水濡れに対しても耐久性があります。 ・人体への影響が少ない植物性インキを用いて印刷しています。

2 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所
		A表現	B鑑賞	[共通事項]	
オリエンテーション	美術との出会い		(1)ア(ア)イ(ア)(イ)	(1)ア、イ	2～4
	目次・学びの言葉／松任谷由実		(1)ア(ア)イ(ア)(イ)	(1)ア、イ	5
	ようこそ美術の学びへ	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	6・7
	教科書の使い方			(1)ア、イ	8
	鑑賞との出会い		(1)ア(イ)イ(ア)(イ)		9
	絵や彫刻との出会い	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)	(1)ア、イ	10・11
絵や彫刻など	見つめて、感じて、描いて	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)	(1)ア、イ	12・13
	そのものらしさを形にして	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)	(1)ア、イ	14・15
	なぜか気になる情景	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	16・17
	人間っておもしろい	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	18・19
	材料に命を吹き込む	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	20・21
	刷って楽しむ版画の世界	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	22・23
	屏風、美のしかけ		(1)ア(ア)イ(イ)	(1)ア、イ	24～29
	墨と水が描く世界	(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	30・31
	絵の中にある物語		(1)ア(ア)		32・33
	原始の美に会う旅		(1)ア(イ)イ(イ)		34・35
オリエンテーション	デザインや工芸との出会い	(1)イ(ア)(イ)(ウ) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)(イ)		36・37
デザインや工芸など	つなげて広がる模様の世界	(1)イ(イ) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	38・39
	文字が生み出すイメージ	(1)イ(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	40～43
	形や色で伝えるシンボルマーク	(1)イ(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	44・45
	見るひとへ楽しく伝えよう	(1)イ(ア) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	46・47
	暮らしの中の木の工芸	(1)イ(ウ) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	48・49
	暮らしを彩る土の造形	(1)イ(ウ) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	50・51
	自然の美しさから生まれた		(1)ア(イ)イ(ア)		52・53
	祭りを彩る造形		(1)ア(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	54・55
学びを支える資料	火焰型土器		(1)ア(ア)イ(ア)(イ)	(1)ア、イ	56・57
	発想・構想の手立て①／鈴木康広、田中達也	(1)ア、イ (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)	(1)ア、イ	58・59
	発想・構想の手立て②	(1)ア、イ (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)	(1)ア、イ	60・61
	どんなふうに描きたい？	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)ア、イ	62
	さまざまな技法で描く	(2)ア(ア)(イ)			63
	木版画／水墨画の表現	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ	(1)ア、イ	64
	文字の基本	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(ア)(イ)	(1)ア、イ	65
	木でつくる	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)イ(イ)	(1)ア、イ	66・67
	粘土でつくる	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)(イ)イ(イ)	(1)ア、イ	68・69
	色彩の基本・仕組み	(1)ア(ア)イ(ア)(イ)(ウ) (2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	(1)ア、イ	70～72
	美術館へ行こう	(2)ア(ア)(イ)	(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	(1)ア、イ	73・74